

戦争中、私たちはドレイであり、戦後は既成党の方針のドレイであり、前科二犯というところであり、ここいら辺で、わが内なるドレイを解放したいものである。そういう意味でも、高浜入干拓反対の漁民達は先達者、だと思ふ。

漁民たちは、生活の実感をしつかり握っており、私たちはコンクリートの上で社会現象そのもののようにしか存在できなくなっているという差異はあるにしても、漁民と私たちには多くの共通点がある。

霞ヶ浦が大好きなこと。

私たちはその水を飲み、彼らはその上で生存を成り立たせていること。

血の中に流れている封建性への従属から解放されつつあること。

愛する類死の霞ヶ浦にとって悪いと思うことは止めるように、くりかえし、くりかえすこと。

敗者であるかもしれないこと。

(主婦)

霞ヶ浦水質浄化に関する

公開質問と回答

本会では昭和四十九年十二月五日の県議会議員の選挙の立候補者に対して、次の四項目にわたる質問状を発しました。それに対する各立候補者よりの回答がよせられましたのですが、紙面の都合で当選者のみ掲載します。

霞ヶ浦水質浄化に関する公開質問

霞ヶ浦汚染の問題は、県南住民の生活基盤を根底からゆるがす重大問題であり、県政最大の課題であります。

今回の県議会議員選挙に立候補するに当り、貴下はどのようなこの問題を考え対処するおつもりなのか、以下の質問に対して具体的にお答え下さるようお願い申し上げます。

一、去る十一月十一日 土浦の自然を守る会会員は、環境庁を訪れ「霞ヶ浦水質浄化に関する請願書」に約二万名の署名を添えて提出いたしました。その際、長官は「霞ヶ浦の汚染は飲料水として使用している全国